

TOYO TIRES 伊丹スポーツセンター 整備方針の策定について

TOYO TIRES 伊丹スポーツセンター—整備方針の策定について

スポーツセンターの特徴

施設情報

開館時間：9時～21時
休館日：12月28日～1月4日（年間営業日数357日）



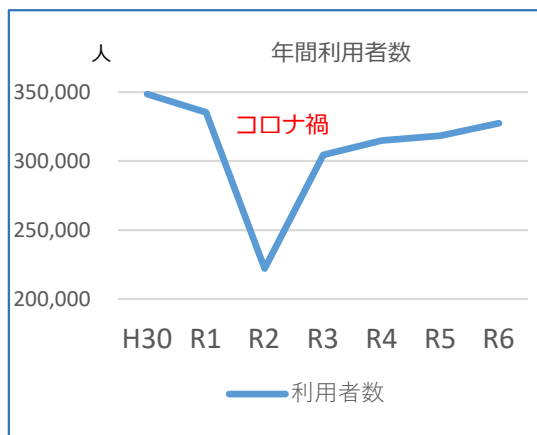
令和7年11月 TOYO TIRE 株式会社と5年間のネーミングライツ契約を締結



伊丹スポーツセンター
マスコットキャラクター
「みこなん」
※年間営業日数357日が由来



利用状況



教室数の状況

	R4	R5	R6
幼児	7	6	2
幼小	16	11	18
小中高	19	19	13
親子	6	4	4
一般（女性含む）	40	41	38
中高年	13	15	15
短期特別講座	11	11	8
合計	112	107	98
定員合計	3,551人	3,313人	3,129人
延べ受講者数	77,066人	72,554人	71,014人

イベントの様子



キッズフェスティバ



スポーツの日のつどい「総合開会式」

スポーツセンターは、陸上競技場や野球場、テニスコートなどの屋外施設、体育館や室内プールなどの屋内施設を備えた**市内随一の多機能スポーツ施設**となっている。年間営業日数は357日となっており、市民が「いつでも」スポーツに親しめる施設であり、年間利用者数は30万人を超え、スポーツに親しむきっかけとなるために年間100近い教室プログラムが実施されている。

また、スポーツ団体のみならず民間企業等、多様な実施主体が参画しスポーツの習慣化や健康増進につながるイベントを実施しているほか、ネーミングライツ事業による**民間企業との連携**など本市のスポーツ施設の**中核施設**となっている。

伊丹市におけるスポーツ活動の特徴

地域が中心となったスポーツ活動



スポーツクラブ21主催
モルック大会



地域のクラブ活動

中学校部活動の地域移行



担い手確保に向けた地域クラブ制度

本市のスポーツ活動の特徴として、多くのトップアスリート、パラアスリートを輩出しており、競技力向上を目指した若年世代の競技スポーツ活動や、地域が中心となる誰もが参加できる生涯スポーツ活動の両輪が推進されており、**市民力を活かしたスポーツ活動を中心としたまちづくりの土壌が存在している。**

国の動向（スポーツ庁資料）

スポーツ未来開拓会議 ～今後のスポーツの成長産業化を見据えた、当面の取組等についてのとりまとめ～（概要）

今後のスポーツ成長産業化に向けた考え方

現行目標と進捗

スポーツ市場規模 2025年までに15兆円

- 2015年以降2019年まで、スポーツ市場規模は名目GDP成長率を大きく上回り成長。
- コロナ禍で市場規模は落ち込むが、2021年にはほぼコロナ禍前の水準まで回復。
- 主なプロスポーツの来場者数も過去最高を更新するなど、再び成長傾向。
- 一方、コロナ禍の影響は大きく、2025年15兆円の目標達成の不確実性は高い。

スポーツ産業の更なる成長に向けた課題

- 相対的に拡大傾向にある「みる」スポーツのみならず、「する」スポーツやスポーツツーリズムも推進。
- 「する」「みる」「ささえる」等の活動を一体的に捉えた取組
- 着実なスポーツの普及と、多様な需要・ニーズへの対応等による付加価値向上

今後の取組の方向性

(1)特に成長を期待する分野への施策

- ①まちづくりと一体となったスタジアム・アリーナの整備・活用（スポーツコンプレックス）やスポーツ振興
 - ✓ハード・ソフト・インフラ面での支援の充実
 - ✓関係者・関係府省庁との一層の連携 等
- ②スポーツと他産業との連携の促進
 - ✓パートナー企業との共創の推進
 - ✓SOIP(Sports Open Innovation Platform)の活用・改善による新規事業創出
- ③スポーツDXやeスポーツの推進
 - ✓ビジネス多角化・収益拡大等に向けたDX推進 等
- ④スポーツエンタメ・コンテンツの海外展開の推進
 - ✓海外向けローカライズ・プロモーション等の推進

- ⑤スポーツコンテンツ等の高付加価値化・スポーツツーリズムの拡大
 - ✓スポーツホスピタリティの推進、スポーツ観戦を活かしたスポーツツーリズム、国際スポーツ大会の活用等
 - ✓JNTO・関係省庁との連携
 - ✓訪日旅行者のニーズ分析等による企画立案、地方への誘客・高付加価値化に資するコンテンツ創出等
- ⑥スポーツを通じた健康増進・共生社会の実現等
 - ✓デジタルデバイス等の活用による個人の運動促進
 - ✓従来の概念にとらわれない多様な身体活動の促進
 - ✓目的を持った運動・スポーツの普及に向けたエビデンス構築等
 - ✓eスポーツの活用、パラスポーツ等の活性化 等

(3)各施策・取組の基盤をつくる活動の拡大等

- ①スポーツの意義・価値の整理・発信等による、民間資金・人材の流入促進
 - ✓スポーツ界への人材流入を図る企業・団体や外部人材の活用を図るスポーツ団体等との連携・情報発信 等

- ②海外展開を目指す日本のスポーツ関連企業や団体向けの情報発信・ネットワーク構築支援
 - ✓JSPIN等を通じたネットワーク強化、ターゲットを定めた戦略的な国際展開 等

▶ 第4次スポーツ基本計画に向けて更なる成長産業化に向けた中長期的な目標等について幅広い検討、更なる施策の具体化・充実、関係者による取組強化等を期待

政府の中長期的展望の名目GDP成長率等を一定程度を上回る成長により、遅くとも2030年までにスポーツ市場規模15兆円を達成し、更なる高みを目指す。



スポーツ産業の成長の意義、それが果たす役割に対する期待

- 単なる経済効果の拡大にとどまらない様々な意義
- **スポーツの自立的な環境整備 地方創生・社会課題解決への貢献 等**
- 多面的かつ中長期的な視点から成長産業化に向けた取組を継続・強化

国の今後の取組の方向性においても、スポーツ産業が果たす役割として、地方創生や社会課題解決への効果が期待されており、着実にスポーツの実施を促すための施策として、「部活動の地域展開等の推進に向けた地域のスポーツ実施環境の整備」と「スポーツを活用したまちづくりの拡大」が挙げられている。

将来世代を見据えた施策展開

今あるTOYO TIRES 伊丹スポーツセンターの特徴や地域のスポーツ環境（土壌）の活用、更には国の方向性を踏まえ、以下の6つの視点を体現できるスポーツ活動を中心としたまちづくり形成の拠点施設を目標に整備を進めてはどうか。

競技力向上

- 天候に左右されにくい屋外競技条件
- 安全性の向上（ケガのリスク減）
- 競技スポーツ大会の実施

子どもの運動習慣化

- 幼児向け運動・スポーツ教室の実施拡大
- 運動を通じた「身体的健康」「精神的効果」「仲間づくりの社会性」の習得

部活動の地域展開

- 大学、企業等と連携した地域クラブ活動の実施
- 地域スポーツ環境の整備

スポーツ活動によるまちづくりの拠点施設整備の必要性

指導者の育成・確保

- スポーツ協会と連携した指導者の育成、質的向上
- 企業、NPO法人等と連携した指導者の確保

地域交流

- スポーツを通じた地域交流、コミュニティの形成
- 「ささえる」スポーツの輪の拡大、パラスポーツ等をささえる多様な主体の確保

健康増進

- 安心安全で身体を動かしたくなる施設
- 企業や大学等と連携した体力測定会や健康啓発イベント

～次世代に誇りある施設を～

「いつでも」「気軽に」スポーツに親しむことができ

多くの市民でにぎわうスポーツセンターの整備

- 本市の強みである**市民力**を活かし、連携し支えあいながら**スポーツの持つ力を活用し、地域課題の解消につなげる施設整備**を行っていきます。
- 「**スポーツ・フォー・オール**」のミッションを掲げ、「誰でも**気軽に**」**取り組める生涯スポーツ**と、「**競技力向上**」を目的とした**競技スポーツ**の両輪を推し進めていくことで、**多様な世代が集う、スポーツ活動を中心としたまちづくりの拠点施設**としての再整備を行います。



こども



大人

スポーツ・フォー・オール伊丹

多様な世代が集う
スポーツ活動によるまちづくりの拠点施設の整備

障がい者



高齢者



屋外施設

- 陸上競技場について
- 野球場について
- テニスコートについて
- 空きスペース等の有効活用について
(ボール遊び施設)

陸上競技場について

施設概要



建築年：1972年 敷地面積：22,877㎡

◇現 状◇

- ・陸上競技場は4種公認を取得している一方で、土のグラウンドなので天候の影響を受けやすい。
- ・陸上での利用ではなく、サッカー、ラグビー、グランドゴルフなどの様々な用途に活用されている。
- ・陸上競技やサッカー、ラグビーの公式試合等については、タータンのトラックや芝（天然・人工芝）のグラウンドでの実施が主流になってきており、施設の社会的劣化が生じている。
- ・平日夜間は、照明設備を活用しサッカー・ラグビーの練習が行われているため、平日16時以降の稼働率が非常に高い。一方で、平日16時までの稼働率は10%程度と低い状況になっている。
- ・休日の稼働率については、平日の16時以降と同程度になっており、高い稼働率になっている。
- ・近隣市の整備状況をみると、陸上トラックについては、阪神北エリアには整備されていない。芝のグラウンドについては、猪名川町を除き、天然芝又は人工芝のグラウンドを保有している。
- ・夜間照明については、LED化が未対応であり照度も低いため、練習等で一定の利用はされている一方で、試合は実施できていない状況である。

◇施設機能

- ・400m×8レーントラック
- ・トラック内グラウンド（真砂土）
- ・スタンド（3,299人収容）
うちコンクリートスタンド704人
- ※第4種公認陸上競技場

◇利用者数と稼働状況

年度	R4	R5	R6
利用者数	45,853人	49,896人	57,734人

◇収入の状況（R6）

単位（千円）		
施設貸与	教室	合計
6,999	701	7,700

◇近隣市の整備状況

仕様	伊丹市	尼崎市	西宮市	宝塚市	川西市	三田市	猪名川町
陸上トラック	土	タータン	整備予定	なし	なし	なし	なし
芝グラウンド	なし	天然芝	人工芝	人工芝	天然芝	人工芝	なし
夜間照明	あり	あり (LED)	あり (LED)	あり (LED)	なし	簡易照明	あり

◇主な利用スポーツ等

- ・陸上
- ・サッカー
- ・ラグビー
- ・グランドゴルフ
- ・スポーツイベント
- 他

稼働状況の低い時間や夜間の利用環境整備により、多くのスポーツ活動の拠点施設としての多様な施策展開を図る中心機能となる可能性のある施設となっている。

野球場について

施設概要



建築年：1971年 敷地面積：14,420㎡

◇現 状◇

- ・本市においては最大（両翼100m、センター115m）の中高生の硬式野球ができる野球場となっている。
- ・春・夏の甲子園開催時には、出場校の練習会場となっている。
- ・外野の守備位置の天然芝が剥げており、安全面に懸念があるうえ、天然芝の維持管理コストがかかっている。
- ・平日については、16時までの時間帯でも50%以上の稼働率があり、夜間も、ナイター照明を活用した野球の練習・試合等が実施されており、平日16時以降の稼働率が高くなっている。
- ・休日の稼働率については、非常に高い稼働率になっている。
- ・近隣市の整備状況を見ると、各市野球場を保有しており、内野は黒土や真砂土、人工芝、外野は天然芝や人工芝、真砂土での整備がされている状況。
- ・夜間照明はLED化未対応であり、電気代も維持管理コストを押し上げている。
- ・収入の内訳は、施設管理収入がほとんどで、教室収入はわずかである。

◇施設機能

- ・両翼100m、センター115m
- ・内野：黒土 外野：天然芝
- ・スタンド（1,208人収容）
うちコンクリートスタンド978名

◇主な利用スポーツ等

- ・野球
- ・スポーツイベント
- 他

◇利用者数と稼働状況

年度	R4	R5	R6
利用者数	28,938人	33,258人	34,388人

区分	R6稼働率
全時間帯	64.5%
平日(16時まで)	50.7%
平日(16時以降)	67.3%
休日	80.0%

◇収入の状況（R6）

単位（千円）

施設貸与	教室	合計
17,261	21	17,281

◇近隣市の整備状況

仕様	伊丹市	尼崎市	西宮市	宝塚市	川西市	三田市	猪名川町
内野	黒土	黒土	黒土	真砂土	真砂土	人工芝	真砂土
外野	天然芝	天然芝	天然芝	真砂土	真砂土	人工芝	真砂土
夜間照明	非LED	LED	非LED	なし	なし	非LED	非LED

全区分を通して稼働率は高いが、天然芝の管理や、夜間照明の電気代等の維持管理経費も大きく、整備工法の検討により、維持管理の効率化を図る可能性のある施設となっている。

テニスコートについて

施設概要



建築年：1972年 敷地面積：テニス 6,360㎡
東テニス 4,140㎡

◇現 状◇

- ・ 13面のテニスコートを保有しており、主に1～6面が定期利用（時間指定あり）、7～13面が一般利用となっている。
- ・ 利用者数は、減少傾向にあるものの、年間55,000人を越えている。また、定期使用は会員数、利用者数共に減少傾向にあるが、一般利用（専用使用・教室）による利用者数は横ばいとなっている。
- ・ 収入の内訳としては、教室事業収入が2千万円を超えており、テニス教室が盛んに実施されている。
- ・ 夜間照明については、LED化が未対応である。
- ・ オムニコートの劣化が著しく部分修繕等に対応している状況である。

◇施設機能

- ・ テニス：1～8面 東テニス：9～13面
※定期使用は、1～4面（9～21時まで）
5～6面（9～17時まで）
- ・ 夜間照明：1～8面

◇主な利用スポーツ等

- ・ テニス
定期使用、専用使用、教室、大会

◇利用者数と稼働状況

年度	R4	R5	R6	区分	R6稼働率
利用者数	61,211人	59,720人	56,611人	全時間帯(1～8番)	51.2%
定期使用以外(一般)	33,138人	33,403人	32,583人	全時間帯(9～13番)	53.7%
定期使用会員数 (定員：360人)	272人	264人	251人		※定期使用を除く

◇収入の状況（R6）

単位（千円）

施設貸与	教室	合計
27,446	20,691	48,136

◇近隣市の整備状況

仕様	伊丹市	尼崎市	西宮市	宝塚市	川西市	三田市	猪名川町
サーフェイス	オムニ	オムニ	オムニ	オムニ	オムニ	オムニ	オムニ
夜間照明	非LED	LED	LED	LED	なし	非LED	非LED

生涯スポーツ及び競技スポーツの場として多くの利用者に親しまれている施設であり、利用者の安全性確保のための整備と夜間照明のLED化による管理経費の削減を行うと共に、一部運用の見直しを行うことで、利用者の拡大を図れる可能性のある施設となっている。

空きスペース等の有効活用（ボール遊び施設）について

施設概要

<テニスコート北側>

<屋内プール北側>



◇近隣市の整備状況



(尼崎市：武庫川河川敷)



(宝塚市：下ノ池公園)

既存のテニス壁打ちコート

壁打ちコート裏空き地



(西宮市：中央運動公園)

◇現 状◇

- ・令和6年度末に策定した「伊丹市スポーツ施設ストック適正化計画基本方針」において、「公共施設のフリースペースや空きスペースの活用」や「将来世代等の市民ニーズを踏まえた施設整備等」を進めていくとしている。
- ・スポーツセンターはスポーツ施設の機能のみならず公園機能も保有しており、ウォーキングや健康遊具での運動など気軽にできる運動・スポーツをしておられる方々多くいる。
- ・スポーツセンター内においては、プール北側・テニスコート北側の空きスペースや、定期使用者専用の壁打ちコートを保有している。
- ・他市では、誰もが気軽に遊べる空間があり、多くの若年世代の利用がなされている。
- ・市内公園では迷惑となるボール遊びは禁止されているが、自由にボール遊びのできる場所を求める声もある。

「ボール遊びのできる公園」の環境整備の一環として、バスケットゴールの設置やテニスの壁打ちの一般開放などが実施できる可能性のある施設空間がある。